

カリフォルニアの風

「主体的に関わることから生まれる『学校の楽しさ』」

4月25日、中高部サンノゼ校の全校朝会において、生徒会役員立候補者による立会演説会が行われました。役員定数7名に対して16名もの生徒が立候補し、限られた45秒間の中で、それぞれ自身の公約や目標を堂々と語りました。「楽しい学校にします」「行事や活動を盛り上げます」——その言葉には、学校をより良くしたいという思いがまっすぐに込められており、全校生徒に向けて懸命に訴える姿が大変印象的でした（中高部サンフランシスコ校でも定数7名のところ、10名の立候補がありました）。



【立会演説会の様子：中高部SJ校】

日本では、役員の仕事量の負担や部活動・習い事との両立の難しさなどから、役員のなり手が限られる状況も見られます。しかし本校では、現地校やクラブ活動等との両立の中で補習校に通うだけでも大きな努力を要する中、多くの生徒が自ら手を挙げました。さらに、立候補者の多さから半数以上が選ばれない状況にあっても、「学校をより良くしたい」「仲間のために力になりたい」という思いから一歩踏み出したその姿に、強い意欲と主体性を感じ、心から頼もしく思いました。保護者の皆様におかれましても、お子様のこうした挑戦や思いに、ぜひ目を向けていただければと思います。結果だけでなく、挑戦に至るまでの過程そのものが、大きな成長につながっています。

児童会・生徒会活動や委員会活動は、児童・生徒が学校づくりに主体的に関わる貴重な機会です。こうした活動を通して、自ら考え行動し、仲間と協力して何かを成し遂げた経験は、「自分は役に立っている」という実感や自信へとつながっていきます。受け身で与えられたことをこなすだけでは得られない充実感や達成感が、そこにはあります。そしてその積み重ねが、「学校は楽しいところだ」という実感を育てていくのだと考えています。

役員や委員に選ばれた皆さんには、ぜひ自覚と責任をもってリーダーシップを発揮してほしいと思います。同時に、学校は役員だけでつくられるものではありません。すべての児童・生徒一人ひとりが児童会・生徒会の一員です。役員や委員を選んだということは、その活動を支え、ともによりよい学校をつくっていく責任を託したということでもあります。それぞれが「自分にできること」を考え、仲間と協力しながら関わっていくことが、学校全体の活力につながります。

今年度の本校の重点目標は、「日本語で学ぶ楽しさを感じる学校～子どもが主体の授業・行事・仲間との協働を通して～」です。この目標の実現に向けては、教職員の努力に加え、児童・生徒一人ひとりの主体的な関わりが欠かせません。そして、その土台には、ご家庭での励ましや見守りが大きな力となります。学校と家庭が思いを共有し、子どもたちの挑戦を支えていくことで、「来てよかった」「また学びたい」と思える学校が形づくられていくと考えています。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



【←立会演説会の様子：中高部SF校】

「安全、安心を第一に…」 4校で避難訓練実施

4月18日、年度初めの避難訓練を4校それぞれで実施いたしました。今回は、3校が不審者対応、1校が大地震を想定した訓練でした。

幼小部SF校における大地震対応の訓練では、子どもたちが教員の指示をよく聞き、落ち着いて避難行動をとる姿が見られました。緊張感をもって取り組む様子から、日頃の指導の積み重ねの大切さを改めて感じました。講評では、「訓練は真剣に、本当に災害が起こったときこそ冷静に行動すること」「自分の命を守るために、教員の指示を確実に聞くこと、そのためにも不要なおしゃべりはしないこと」を伝えました。

災害や緊急事態は、いつ、どこで発生するか分かりません。学校では今後も、地震・火災・不審者対応など、さまざまな状況を想定した訓練を年3～4回実施し、「自分の命は自分で守る」という意識と行動力を育ててまいります。

ご家庭におかれましても、いざというときの集合場所や連絡方法、送迎ルート of 安全確認、非常時の持ち出し品などについて、ぜひお子様と具体的に話し合う機会を設けていただければと思います。「備えあれば憂いなし」です。日頃からの備えと意識が、いざというときの冷静な行動につながります。



【机の下に入って頭を守ります：幼小部SF校】

運動会の練習始まる：幼小部SJ校・SF校

4月25日より、運動会に向けた取組がスタートしました。両校では各学年でリレー選手を決める徒競走を行い、代表選手が決定しました。代表に選ばれなかった児童も、最後まで全力で走る姿が見られました。

また、全校朝会ではラジオ体操の練習も始まり、幼小SF校では5月2日より、児童会（学級委員）が各クラスを回って「運動会でラジオ体操を行う意味」を説明しています。子どもたち自身が、安全に運動会を行う意識を高める大切な取組となっています。

限られた準備・練習期間ではありますが、一人ひとりが真剣に取り組み、本番での頑張りや活躍につながることを楽しみにしています。



【リレー選手決めの様子：幼小部SJ校】

授業の充実に向けて

今年度も、授業力の向上と、一人ひとりの児童生徒に応じた学力を育むため、各校で授業研究・研修がスタートしました。

幼小SJ校では、4月18日に教頭が2年生国語「日記を書こう」の単元で、学級ごとに異なる3種類の提案授業を公開しました。多くの教員が熱心に参観し、同じ内容でも授業展開や発問の工夫によって多様なアプローチが生まれることを学び合っていました。

また、中高SJ校では、4月25日に中学3年生数学科の研究授業が2クラスで公開されました。スライドやワークシートを効果的に活用し、生徒が主体的に演習や考えの共有に取り組む時間が確保されていました。



専門教科を越えて参観する教員の姿も見られ、事後研修では、それぞれの授業改善につながる気づきや学びを共有する有意義な時間となりました。

教員同士が学び合い、高め合う姿勢を大切にしながら、子どもたちにとって「わかる・できる・楽しい授業」につなげていきたいと考えています。

←【中3数学科の研究授業の様子：中高部SJ校】